平成 25 年度・技術情報第1号

平成 25 年 6 月 18 日
沖縄県病害虫防除技術センター

さとうきびにおけるバッタ・イナゴ類の防除対策について

例年梅雨明け以降は、バッタ・イナゴ類の成虫の発生が増加する時期にあたります。タイワンツチイナゴ、ヒゲマダライナゴおよびトノサマバッタは干ばつが続くと多発生しやすく、時折激しい被害をもたらします。特に雨量が少ない地域では、圃場および周辺雑草地等を見回り、早期発見・防除に努めましょう。

1　発生状況

(1) 5月下旬の病害虫防除員からの報告によると、沖縄本島南部地域および南大東島の一部さとうきび圃場においてバッタ類の発生がみられた。

(2) 宮古島における6月中旬の調査の結果、タイワンツチイナゴとヒゲマダライナゴの成幼虫が、一部地域のさとうきび、牧草およびカボチャの放棄畑のソルゴーにおいて、高密度で発生した(図1、2)。発生の多いさとうきび圃場では、成幼虫数は 30.1 頭/㎡に達していた。

(3) 上述の調査時において、トノサマバッタ(図3)の幼虫も確認されたが、発生はさとうきびの一部圃場に限られていた。

(4) 八重山地方では6月中旬現在、バッタ類の発生は少ないが、石垣島、小浜島、与那国島ではバッタ類によるさとうきびへの食害が確認された。

(5) 6月 14 日付け沖縄気象台発表の少雨に関する沖縄地方気象情報によると、大東島地方、宮古島地方および八重山地方では5月後半から降雨量の少ない状態にあり、バッタ・イナゴ類の発生に好適な条件が続くことから、今後の発生に注意が必要である。

2 生態

(1) タイワンツチイナゴは年1回の発生で、幼虫は5～6月に、成虫は6～8月にかけて出現する。

(2) ヒゲマダライナゴは宮古・八重山群島に生息し、年1回の発生で、幼虫は4月下旬頃から、成虫は6～7月にかけて出現する。

(3) トノサマバッタは年3～4世代の発生で、幼虫は3月頃から、成虫は5月頃から出現する。

(4) 若齢幼虫は主に圃場周辺のイネ科雑草を食害し、その後さとうきび圃場を加害する場合が多いので、幼虫の発生時期をねらって防除する。

(5) 耕うんしない草地は、バッタ類の好適な産卵場所となりやすい。

3　防除対策上注意すべき事項

(1) 圃場周囲の雑草は、若齢幼虫の好適な餌となるため、雑草の除去に努める。

(2) 幼虫期に一斉防除すると効果的であるので、常発地域においては、圃場および圃場周辺の見回りを行い、早期発見に努める。

(3) 成虫を防除する時には、活動の鈍い早朝に一斉防除を行うと効果的である。

(4) 薬剤散布の際は、近隣作物へのドリフト(飛散)に注意すること。

図１　タイワンツチイナゴの幼虫(左)と成虫(右)

図２　ヒゲマダライナゴの被害(左)と成虫(右)

図３　トノサマバッタの幼虫(左)と成虫(右)

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★
TEL：（本所）098-886-3880、（宮古駐在）0980-73-2634、（八重山駐在）0908-82-4933
ホームページアドレス　：http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojo/index.html